

大型車の車輪脱落事故防止対策「令和7年度緊急対策」について

大型車の車輪脱落事故が増加していますので、以下の事故防止対策について積極的な取り組みをお願いいたします。

1. 事業主・会社代表者の方へ

車輪脱落事故防止のための「お・と・さ・な・い」のポイント(※)について、自社内の整備管理者、運転者及びタイヤ脱着作業者に周知徹底を図ってください。

- ◎ 車輪脱落事故防止のための「お・と・さ・な・い」のポイント

お…おとさめための点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善な手段

と…トルクレンチで適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施

さ…さびたナットは清掃・交換

ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを除去

な…ナット・ワッシャー隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させてなじませる

い…いちにち一度はゆるみの点検

運行前に特に脱落が多い左後輪を中心にボルト、ナットを目視、直接触って点検

- ※ 青森県トラック協会ホームページ (<http://www.aotokyo.or.jp>) 2025 年 10 月 10 日付け
ニュース記事「令和7年度 大型車の車輪脱落事故防止対策「ホイールナットの緊急点検」の
実施について」から啓発チラシ『防ごう大型車の車輪脱落事故 おとさない』をダウンロード
できます。

2. 整備管理者・補助者の方へ

- 作業時間に余裕を持った、計画的なタイヤ脱着作業を実施してください。特に降雪地を運行する車両がある場合は、積雪予報が発せられた際に急な交換とならないよう十分配慮してください。(冬用タイヤの交換平準化)
- 自社内でタイヤ脱着作業を行う際は、正しい知識を有した者が実施してください。
- 著しくさびたホイールボルトやホイールナット、ディスクホイールでは、適正な締付力が得られないため、タイヤ脱着作業時に点検・清掃や潤滑剤の塗布を行って

も、さびが著しいディスクホイールや、ひっかかり等の異状がありスムーズに回らないホイールボルト及びホイールナットは、使用せず交換してください。

※ 青森県トラック協会ホームページ (<http://www.aotokyo.or.jp>) 2025 年 10 月 10 日付け
ニュース記事「令和 7 年度 大型車の車輪脱落事故防止対策「ホイールナットの緊急点検」の
実施について」から啓発チラシ『ホイールボルト、ナットやディスクホイール、ハブの錆に
注意！』をダウンロードできます

- 車輪脱落事故の多い左側後輪について重点的に点検してください。
- 積雪地域や舗装されていない道路を走行する大型車について、入念に点検してください。
- 増し締めをやむを得ず車載工具で行う場合の実施方法を運転者やタイヤ脱着作業者に指導してください。なお、車載工具で増し締めを行った場合は、必ず帰庫時にトルクレンチを使用して規定のトルクで締め付けてください。また、トルクレンチは校正が必要です所以注意してください。

3. 対策のポイント

依然として、自社でタイヤ脱着した大型車による車輪脱落事故が多発していることを踏
まえた対策

- 自社内で大型車のタイヤ脱着作業を行うときは、作業者に別紙 1 の「タイヤ脱着作業管理表」に沿って作業を実施し、その結果を記録してください。
- タイヤ脱着作業完了後、別紙 1 の「タイヤ脱着作業管理表」をもとに適正なタイヤ脱着作業が行われていることを確認してください。
- 別紙 1 の「タイヤ脱着作業管理表」を使用し、増し締めの実施結果を記録してください。
- 点検実施者に別紙 2 の「日常点検表」を使用し、「ディスクホイールの取付状態」の点検を確実に行ってください。
- 増し締め実施後、点検ハンマによる確認手法、ホイールナットヘマーキング（注 1）を施す、又は、インジケーターを装着し、それらのずれを確認する手法により、ホイールナットの緩みの点検（注 2）を確実に確認してください。

注1 ホイールナットへのマーキング（合いマーク）は、目視によりホイールナットの緩みを確認可能とする措置であるため、以下の点に留意して施工する。

- マーキングは、対象となるナットが緩んでいないことを確認し、施工する必要がある。
- マーキングは、ボルト、ナットに連続して記入する。できれば、座金、ホイール面まで連続して記入することが望ましい。
- マーキングは増し締め実施後に施工する。タイヤ脱着時にマーキングを施工したときは、増し締め実施後に再度、マーキングを施工する。この場合、以前のマーキングを消して新たに施工するか、以前のマーキングは残し色違いのマーキングを施工するかのいずれかによる。
- マーキングが確認しやすい色（白色、黄色等）を使用する。また、マーキングのずれが目視で判別できるよう、適当な太さで施工する。
- マーキングの記入に使用する塗料は、屋外使用に適し、雨や紫外線等に対して耐久性のあるものを使用する。（例：油性顔料インキ）

注2 ISO方式のホイールにおいて、「ホイールナットの緩み」の点検を、ホイールナットへのマーキング又はインジケータ類による合いマークのずれの確認により行っても差し支えない。ただし、ホイールボルトの折損の点検方法としては不適切であることに留意する。